



医薬品容器

洗浄滅菌技術を高度化

三田理化新設備で受託開始

三田理化工業(大阪市北区、千種康一社長、06・6458・0971)は、開発センター(兵庫県西脇市)に無菌アイソレーター(写真)や過酸化水素ガス発生装置などを導入し、医薬品容器の洗浄・滅菌加工サービスをより高度化して提供を始めた。総投資額は約1億円。洗浄・滅菌加工技術の高度化により、今後1年で1割程度の受注増を目指す。

GMP(医薬品などの製造管理、品質管理の基準)の無菌医薬品製造指針「グレードA」に準拠した環境で、医薬品容器の洗浄から包装まで作業できる環境を整えた。テララームド医薬品や陽電子放射断層撮影(PET)診断薬向けなどに、GMP準拠環境で滅菌加工したバイアル(ガラス製小瓶)やアンプル(薬液など入れる容器)が欲しいという要望があり、無菌アイソレーターを導入した。無菌ア

イソレーターは、内部の空気の流れを管理し、無菌状態の作業スペースを提供する装置。作業者が無菌アイソレーター内に入ると同時に、開発センターに広さ約15平方メートルの試験検査室を新設した。数千本規模の抜き取り検査を行い、滅菌洗浄できていることを証明する。

開発センターでは、現在年間約30万本のバイアルやアンプルといった医薬品容器の洗浄・滅菌加工を手がけている。

素材・ヘルスケア・環境